

第42回 踊る新人



会計士受験生の皆さん、こんにちは。受験勉強頑張っていますか？私も現在進行形で新人として初めての期末監査を経験して頑張っています。今回はそんな期末監査で踊った経験をお伝えしようと思います。

受験生時代の自分は常に机にあるテキストや問題集と睨めっこ。使えればいいのはペンと電卓とタブレット端末、そして頭。

受験生という立場であることの型にはまり、当時は受験に必要なツールは理解していても、受験後の自分自身に必要なスキルや心構えに目を向ける余裕はありませんでした。

11月に公認会計士試験に合格して束の間、私は学生非常勤としてアーク有限責任査法人に入社することになりました。そのため、実際に常勤として働く卒業後の4月には、いきなり監査法人の繁忙期に突入、という大変なスケジュールとなりました。

そんな自分が最初に担当したのは現預金、販管費、借入金といった比較的风险が低いといわれている勘定科目でした。アーク監査法人では期末であっても新人に最初から残業、残業というスタンスではないため、アサイン内でほとんど定時内にしっかり終わられるような科目分担になっています。

そのように聞いていた自分は、すっかり高を括ってしまい、なんの事前準備もしないままに期末監査当日を迎えました。

実際に作業を実施すると、増減分析から会社担当者への質問、確認状との突合、その他監査戦略に応じた証憑の依頼からバウチングの実施まで業務は多岐にわたり、それだけでも目が回りそうでしたが、最も苦労したのがパソコンのタイピングでした。パソコンをほとんど使ったことのなかった私は、その時はタイピングさえうまくいかず、昨年の調書を真似してデータを加工するのにもかなり苦労しました。



結局目が回り、踊り続けた私は割り当てられた業務の多くを残してしまい、とても苦く落ち込んだ経験を植え付けられた期末監査でした。

受験生のみなさん、監査調書作成業務はパソコンでの作業です。会計士試験に合格後は少なくともタイピングの練習（ブラインドタッチの練習）は事前に行っておきましょう。少しでも踊らないで済むように。

